



CITIZEN

2021年度（2022年3月期）
通期決算説明会

シチズン時計株式会社
2022年5月12日

広報IR担当の古川です。

2021年度通期業績につきまして、私からご説明いたします。

2021年度通期業績概要



2021年度通期実績

- 時計・工作機械事業の回復により、売上高2,814億円（前年比 +36%）
時計事業 1,310億円（前年比+37%）、工作機械事業 810億円（前年比+73%）過去最高
- 営業利益222億円（前年比 +318億円増益）
- 当期純利益は過去最高となる221億円（前年比 +473億円増益）

2021年度第4四半期（1-3月期）実績

- 時計・工作機械事業の売上高増により、営業利益26億円（前年比+61億円増益）

まず、今回の決算の主なポイントについて、ご説明いたします。

2021年度通期決算につきましては、主力事業である時計事業と工作機械事業を中心に大きく回復したことから、売上高は前年比36%増の2,814億円となりました。時計事業は前年比37%増の1,310億円、工作機械事業は、前年比73%増の810億円となり、工作機械事業の売上高は過去最高となりました。売上高の増加に伴い、営業利益は前年比318億円増となる222億円となりました。また、為替差益の計上などにより経常利益も大幅に増益となった他、繰延税金資産の評価性引当額が減少すること等により税金費用が減少したため、当期純利益は、前年比473億円増の221億円となり、過去最高を更新しました。

なお、第4四半期につきましても、時計事業と工作機械事業の売り上げが予想を上回り、増収増益となりました。

(単位：億円)	2020年度 通期実績	2021年度 通期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	2,066	2,814	+747	+36.2%
営業利益	▲ 95	222	+318	-
営業利益率	▲4.6%	7.9%	-	-
経常利益	▲ 41	273	+314	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 251	221	+473	-
為替レートの影響	¥106/USD ¥123/EUR	¥112/USD ¥130/EUR	-	-

通期の連結業績の概要になりますが、

売上高は、2,814億円、前年比747億円の増収となりました。

営業利益は、222億円、営業利益率7.9%、経常利益は、為替差益を21億円計上したこともあり、273億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、221億円です。

2021年度通期 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度 通期実績	2021年度 通期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	956	1,310	+354	+37.1%
■ 工作機械事業	467	810	+343	+73.4%
■ デバイス事業	459	500	+41	+9.0%
■ 電子機器他事業	183	192	+8	+4.9%
合 計	2,066	2,814	+747	+36.2%
営業利益				
■ 時計事業	▲ 81 (▲8.6%)	103 (7.9%)	+ 184	-
■ 工作機械事業	29 (6.3%)	125 (15.5%)	+ 96	+328.9%
■ デバイス事業	▲ 4 (▲1.1%)	28 (5.7%)	+ 33	-
■ 電子機器他事業	3 (2.1%)	11 (6.1%)	+ 7	+197.5%
消去又は全社	▲ 41	▲ 46	▲ 4	-
合 計	▲ 95 (▲4.6%)	222 (7.9%)	+ 318	-

5

こちらはセグメント別の業績になります。
全ての事業セグメントが、増収増益となっております。

営業利益に関しては、時計事業が前年比184億円の増益、工作機械事業が96億円の増益、デバイス事業が33億円の増益となりました。

(単位：億円)	2020年度 4Q実績	2021年度 4Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	555	658	+102	+18.5%
営業利益	▲34	26	+61	-
営業利益率	▲6.3%	4.0%	-	-
経常利益	▲14	50	+65	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲32	49	+82	-
為替レートの影響	¥104/USD ¥127/EUR	¥115/USD ¥129/EUR	-	-

ここからは、第4四半期の業績および事業概況についてご説明します。

売上高は、前年比102億円増の658億円、

営業利益は、前年比61億円増の26億円、営業利益率は4%となりました。

経常利益は、前年比65億円増の50億円、

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年比82億円増の49億円となりました。

2021年度第4四半期（1－3月期） セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度 4Q実績	2021年度 4Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	238	282	+43	+18.2%
■ 工作機械事業	141	209	+67	+47.4%
■ デバイス事業	126	121	▲4	▲3.9%
■ 電子機器他事業	47	45	▲2	▲5.8%
合計	555	658	+102	+18.5%
営業利益				
■ 時計事業	▲43 (▲18.3%)	▲0 (▲0.3%)	+42	-
■ 工作機械事業	14 (10.2%)	31 (15.2%)	+17	+119.4%
■ デバイス事業	2 (2.1%)	7 (6.2%)	+4	+184.7%
■ 電子機器他事業	2 (5.1%)	1 (2.5%)	▲1	▲53.3%
消去又は全社	▲10	▲13	▲2	-
合計	▲34 (▲6.3%)	26 (4.0%)	+61	-

7

第4四半期のセグメント別業績はご覧の通りです。
この後、事業毎に説明してまいります。

第4四半期

完成品販売

- 海外市場：北米の好調が引き続き業績を牽引したほか、欧州が底堅さを保つ
- 国内市場：消費の回復が進まず減収

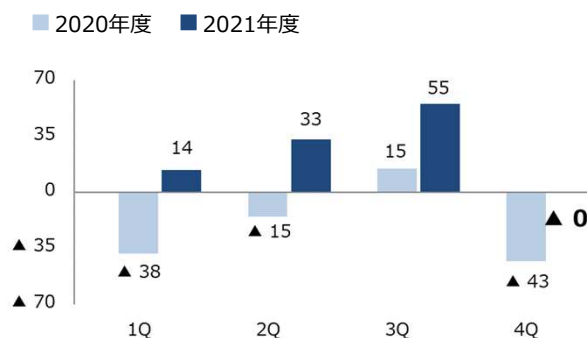
ムーブメント販売

- 機械式ムーブメントが堅調継続。アナログクォーツも多針系が好調維持

売上高(億円)



営業利益(億円)



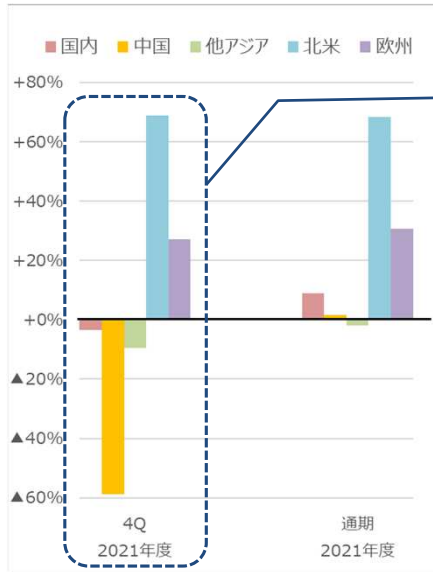
それでは、事業別の概況をご説明します。

まず、時計事業ですが、期首から好調が続いている北米市場が第4四半期も大幅に増収となった他、欧州も想定以上の増収となり、売上高は282億円、前年比18%増となり、予想を上回りました。

ムーブメント販売につきましては、機械式ムーブメントや多針系など高付加価値クォーツムーブメントの販売好調が継続しました。

営業利益は、増収効果と為替影響などにより、前年比42億円の増益となっております。

■ 前年同期比増減率



前年同期(2020年度4Q)比増減率

北米、欧州の好調が全体を牽引した一方で、中国が大幅減

- 国内：消費活動の停滞により伸び悩み
- 中国：景況感の悪化等を受け大幅減
- 他アジア：消費マインドの低下等により減収
- 北米：EC販売及び実店舗の回復を受け好調継続
- 欧州：経済活動の再開に伴い主要地域が回復

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。
 ※ 他アジアは中国を除いたアジア地域
 ※ 現地通貨ベースの増減率

地域別の売上高増減率のグラフですが、左側が第4四半期、右側が通期の前年対比になります。

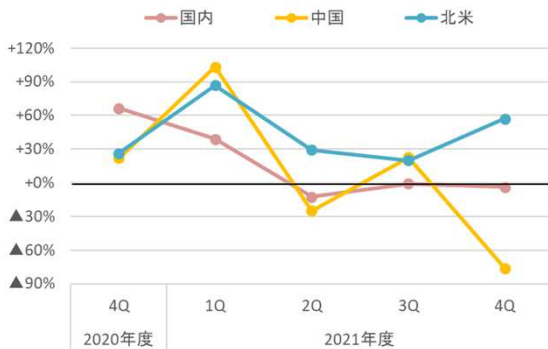
赤のグラフは国内ですが、第4四半期はシチズンブランド以外の売上げが減少し僅かに減収となりましたが、通期では増収となりました。

黄色の中国は、ロックダウンに伴う物流の混乱や消費の低迷により大幅な減収となりましたが、通期では増収を確保しました。

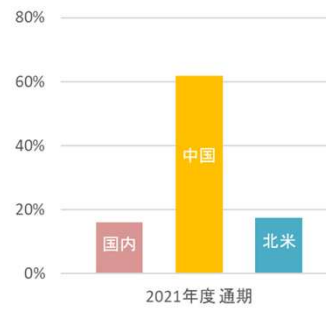
水色の北米は、前年比6割以上の増収が継続。

薄紫色の欧州も、3割近い増収となりました。

■ EC販売 前年同期比増減率



■ EC比率



■ EC販売 4Q前年同期比増減率

- 国内 ▲4% 限定品は堅調に推移したものの、経済活動正常化に向けた動きは弱く伸び悩み
- 中国 ▲76% コラボモデルが好調に推移した一方、ロックダウンに伴う配送の混乱や消費の停滞を受け減収
- 北米 +57% EC販売強化に向けた取り組みが寄与し、直販ECは限定製品を中心に好調継続。既存ECも伸張

※ 国内、中国はCITIZENブランドのみの増減。北米はCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減
 ※ 増減率、EC比率はいずれも現地通貨ベース

主要3地域のEC販売額、前年比の増減率です。

第4四半期のEC販売額は、国内はほぼ前年並み、中国は、オリンピック開催や新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、大きく減収、北米については、増収となっております。




ジンベイザメをモチーフにした限定モデル

- プロフェッショナルスポーツウォッチとしての高い性能に加え、「想像力」という価値を提案する『シチズン プロマスター』
- 絶滅危惧種であるジンベイザメをモチーフとした「エコ・ドライブ ダイバー-200m」限定モデルを2022年秋冬に発売予定（世界限定5,000本）
- 当モデルの売り上げの一部は、国際的な自然保護団体である「コンサベーション・インターナショナル(CI)」の海洋保全活動への支援に使用



「チャレンジダイバー」のデザインを受け継ぎ現代的にアップデート

- シチズンのアーカイブにおいてユニークな逸話を持つダイバーズウォッチ「チャレンジダイバー」
- 1983年にオーストラリアのロングリーフビーチの海中で、フジツボに覆われながらも、浸水することなく動き続けているものが発見
- 本モデルは、「チャレンジダイバー」のデザインを継承しながら、外装とムーブメントを現代的にアップデートし、2022年8月に発売予定



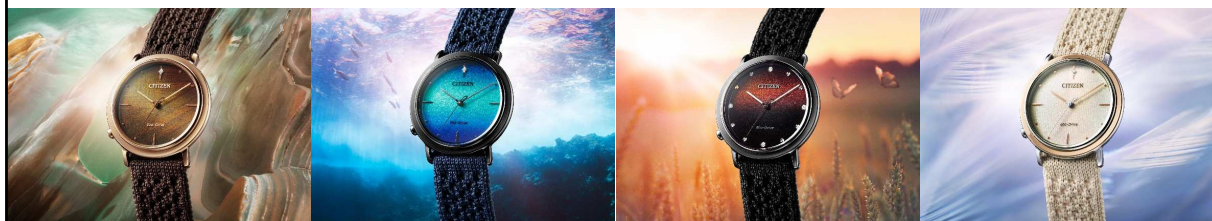
1983年 オーストラリアのロングリーフビーチで発見された
1977年発売の自動巻きダイバーズウォッチ「チャレンジタイマー」

続いて、グローバルブランドの新製品を紹介させていただきます。

プロマスターはプロフェッショナルスポーツウォッチとしての高い性能に加え、未知の領域への「想像力」という価値を提案するブランドであり、新中期経営計画において強化を進めています。

限定モデルやユニークなエピソードを持つ新製品を投入して、ブランドやデザインコンセプト、背景などのストーリーをしっかりと伝え、共感され、指名買いされるブランドを目指して訴求を行っていきます。

CITIZEN *L*



Biomimicry (バイオミミクリー) を取り入れた新作

- 地球環境や人に配慮したサステナブルウォッチブランド『CITIZEN L (シチズン エル)』のシグネチャーライン『Ambiluna (アンピリュナ)』
- 生物の仕組みや自然の美しさに学ぶバイオミミクリー※を取り入れ、「地・水・火・風」をテーマにデザインした10周年記念限定モデルを含む全4モデルを2022年7月に発売予定

※ Biomimicry (バイオミミクリー) : 生物の構造や機能から学んだことを技術開発に活かすことを指し、生物を意味する「Bio」と模倣を意味する「Mimicry」からなる用語

自然の美しさからインスパイアされた製品を提案するシチズン・エルについても、独自の世界観を製品に取り入れることでグローバルイメージの確立を目指していきます。環境志向の高まりから、環境に配慮した製品づくりが新たな価値へとつながります。

第4四半期

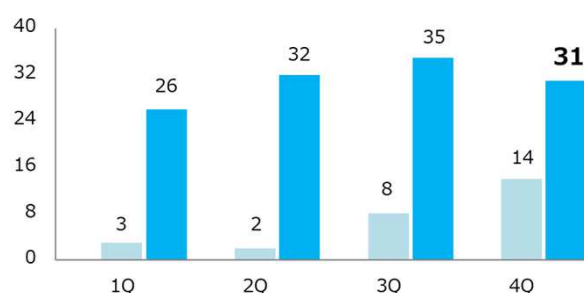
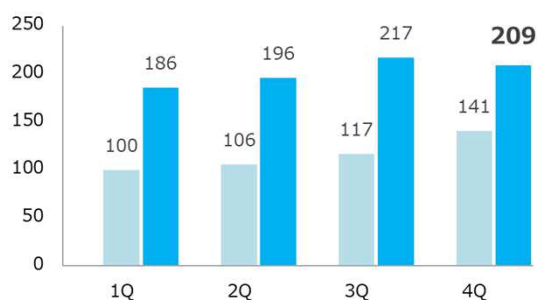
- 国内市場：長納期化が進む中、半導体・建機など幅広い業種が好調に推移し、増収
- 海外市場：欧州が旺盛な設備投資需要を受け、増収。中国も好調継続

売上高(億円)

営業利益(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度

■ 2020年度 ■ 2021年度

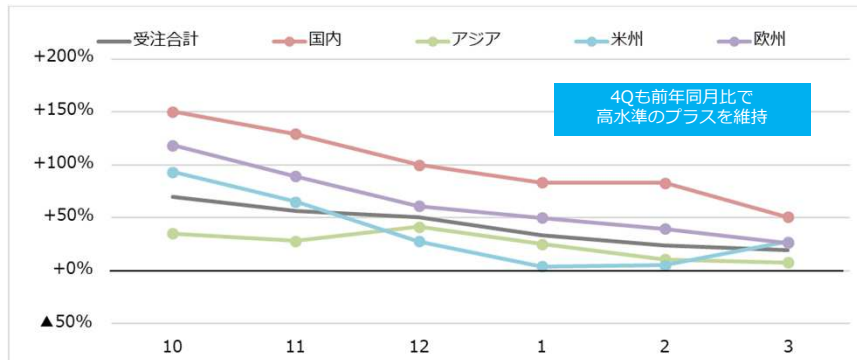


続いて、工作機械事業の業績概況をご説明します。

第4四半期の売上高は209億円、前年比47%増、営業利益は31億円、前年比119%の増益となりました。

調達部材の遅れが継続している中、何とか生産と出荷を予定以上に進めることができ、特に欧州や中国向けの販売を伸ばしたことから、予想を上回る業績となりました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 4Q前年同期比増減率(四半期受注台数)

● 受注合計	+20%	部品調達難に伴う長納期化が進む中、幅広い業種から受注を獲得し高水準を維持
● 国内	+51%	半導体、建機など全体的に好調、自動車は減産影響により回復遅れ
● アジア	+8%	医療、自動車、スマートフォン関連など全体的に好調な受注を獲得
● 米州	+28%	医療関連を中心に積極的な設備投資が継続
● 欧州	+26%	自動車をはじめ、医療、油圧等幅広い業種で旺盛な需要が継続

こちらは、地域別の受注状況です。

上の折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率になっています。

下の表は、第4四半期の受注台数の前年比、伸び率を地域別に示しています。
全体の受注台数は前年比20%増と、引き続き高水準を維持しています。

国内は、海外に比べて回復が遅れていましたが、半導体や建機などが好調に推移し、前年比51%増となりました。

中国・アジアは引き続き、医療、自動車、スマートフォン関連などが好調さを保ち、前年比8%増となりました。

米州は、医療関連を中心に積極的な設備投資が継続し、前年比28%増、

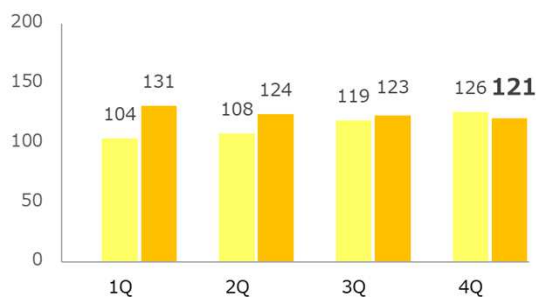
欧州は、自動車をはじめ医療や油圧等幅広い業種で旺盛な需要を獲得し、前年比26%増となりました。

第4四半期

- 精密加工部品：自動車部品は自動車メーカーの減産等の影響を受け想定を下回るも、利益確保
- オプトデバイス：車載用LEDは回復したが、照明用LEDが落ち込み減収
- その他部品：水晶デバイスはIoT関連など幅広い分野で需要が伸び、増収
小型モーターは医療関連や半導体関連が堅調に推移

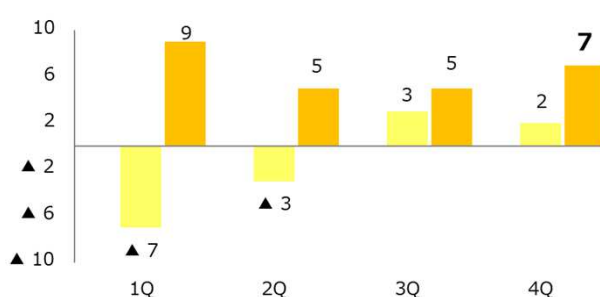
売上高(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度



営業利益(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度



デバイス事業です。

第4四半期売上高は121億円、前年比4%減となりましたが、営業利益は固定費圧縮の効果もあり、前年比4億円増の7億円となりました。

自動車部品は、自動車メーカーの減産の影響を受け計画に届きませんでしたでしたが、水晶デバイスがIoT関連の需要増などで増収となった他、小型モーターやセラミックスなどその他部品が増収となりました。

2022年度上期及び通期連結業績予想

2022年度通期業績予想

- 時計事業は消費の回復が継続し増収予想
- 工作機械事業は高水準の受注残があるものの、部材調達難の影響により、売上微増の予想
- 営業利益は増益予想だが、為替差益を見込まず経常利益・当期純利益は減益予想

2022年度配当金予想

- 年間配当金 30円（中間 15円 / 期末 15円）
参考：2021年度 年間配当予定 18円（中間 9円 / 期末 9円）

それでは、2022年度通期業績予想について、ご説明します。

時計事業は消費の回復が継続し増収。

工作機械事業は高水準の受注残があるものの、部材調達難の影響により、売り上げは微増に留まると想定し、連結売上高は4%の増収を見込んでいます。

営業利益は増益としましたが、為替差益の計上等を見込んでいないことなどから、経常利益、当期純利益は減益となる予想となっています。

なお、年間配当金の予想につきましては、前期比12円増の、一株当たり30円とする予定です。

2022年度 上期及び通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2021年度実績		2022年度予想		増減額	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,357	2,814	1,425	2,935	+67	+120
営業利益	106	222	105	225	▲1	+2
営業利益率	7.9%	7.9%	7.4%	7.7%	-	-
経常利益	120	273	110	240	▲10	▲33
親会社株主に帰属する当期純利益	98	221	80	180	▲18	▲41
為替レートの影響	¥110/USD ¥131/EUR	¥112/USD ¥130/EUR	¥120/USD ¥130/EUR	¥120/USD ¥130/EUR	-	-

■ 為替影響額 (1円円安の年間影響額)

売上高	USD	EUR	営業利益	USD	EUR
	+9億円	+4億円		+2.5億円	+2億円

18

2022年度の通期業績予想は、売上高は、2,935億円、前年比120億円増、営業利益は、225億円、経常利益は240億円、当期純利益は180億円を予想しております。

2021年度はコロナ禍において、経費をきつく抑制しておりましたが、新年度は事業活動の正常化に伴い経費が増加する他、成長投資の積極化、あるいは部品や輸送費、エネルギーコストの上昇などもあり、営業利益は小幅の増益にとどまる見通しとなっております。

尚、業績予想の前提為替レートは1USD=120円、1EUR=130円です。

また、為替の感応度については、売上構成の変化などにより見直しを行い、今期の影響額は1円の円安に対し、売上高でUSDが+9億円、EURで+4億円、営業利益はUSDが+2.5億円、EURで+2億円としました。

2022年度 上期及び通期連結業績予想 セグメント別業績推移

CITIZEN

		(単位：億円 / %：営業利益率)		2021年度実績		2022年度予想		増減額	
		上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	■ 時計事業	620	1,310	680	1,420	+59	+109		
	■ 工作機械事業	383	810	410	820	+26	+9		
	■ デバイス事業	255	500	250	510	▲ 5	+9		
	■ 電子機器他事業	98	192	85	185	▲ 13	▲ 7		
	合計	1,357	2,814	1,425	2,935	+67	+120		
営業利益	■ 時計事業	48 (7.8%)	103 (7.9%)	54 (7.9%)	115 (8.1%)	+5	+11		
	■ 工作機械事業	58 (15.4%)	125 (15.5%)	64 (15.6%)	128 (15.6%)	+5	+2		
	■ デバイス事業	15 (6.0%)	28 (5.7%)	12 (4.8%)	29 (5.7%)	▲ 3	+0		
	■ 電子機器他事業	7 (7.6%)	11 (6.1%)	3 (3.5%)	8 (4.3%)	▲ 4	▲ 3		
	消去又は全社	▲ 23	▲ 46	▲ 28	▲ 55	▲ 4	▲ 8		
	合計	106 (7.9%)	222 (7.9%)	105 (7.4%)	225 (7.7%)	▲ 1	+2		

19

セグメント別の通期業績予想になります。

時計事業については、北米は引き続き好調を維持すると見込んでいます。国内やアジアも回復傾向を辿る見込みですが、中国は円ベースで前年並み、現地通貨では前年割れの見通しにしています。

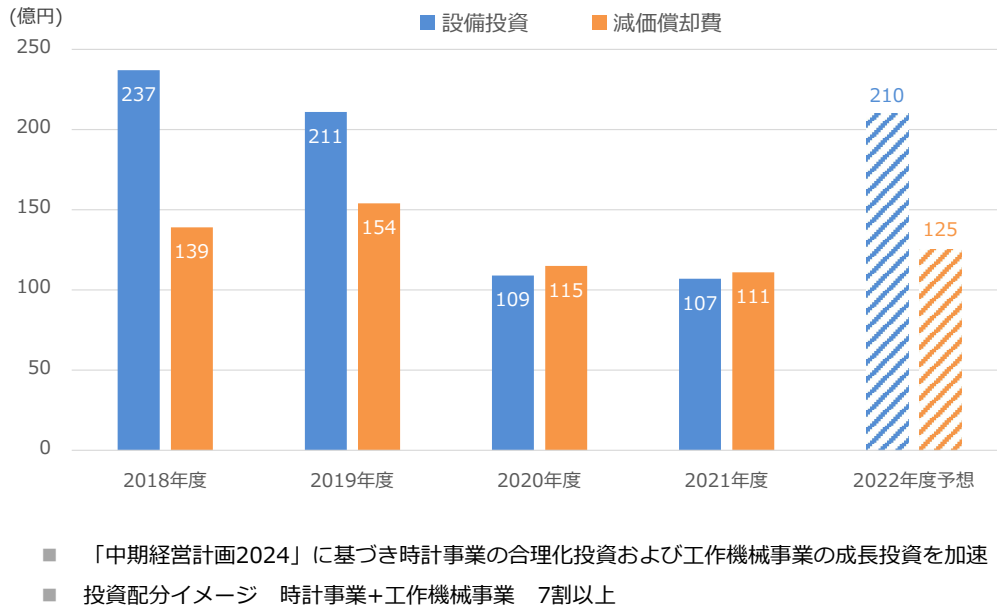
売上高は、前年比109億円増の1,420億円の見込みとしました。

工作機械事業は、高水準の受注への生産対応を着実に進めることで、前年比9億円増の820億円、

デバイス事業は、上期に自動車の減産影響を織り込んで、通期では前年比9億円増の510億円を見込んでいます。

また、電子機器他事業は、半導体の調達難により、プリンターの生産に影響が出る見通しであるため、前年比7億円減の185億円としています。

デバイス事業と電子機器他事業は、若干の減益になりますが、時計事業と工作機械事業は増益を確保する予定です。



2022年度の設備投資計画は、「中期経営計画2024」でも掲げている通り、工作機械事業の成長のための生産能力増強の投資を加速させる他、時計事業では、機械式ムーブメントの合理化投資、およびEC販売強化やCXの向上にむけたマーケティングの投資に重点を置いて進めます。

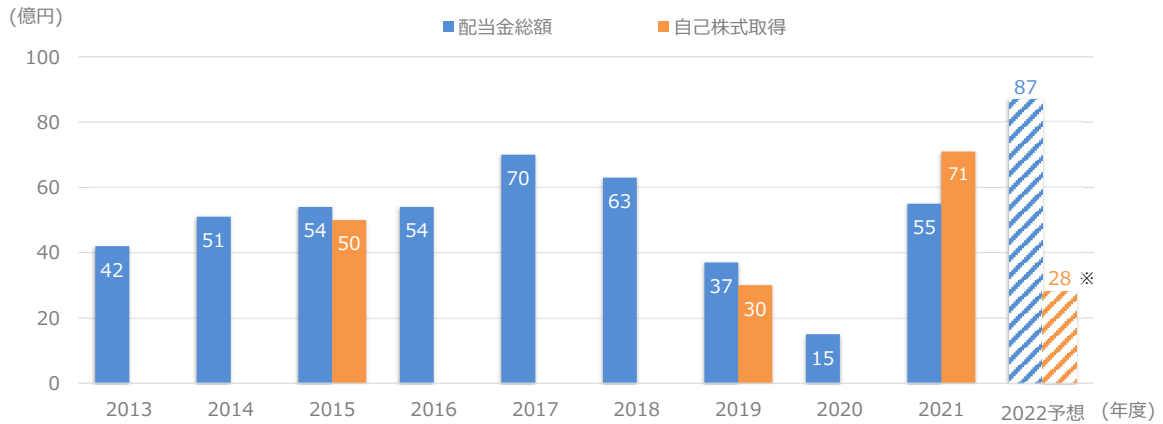
設備投資は210億円、減価償却費は125億円を予定しています。

中期経営計画 株主還元方針 2022~2024年度

- 安定的かつ継続的な配当を重視
- 配当性向 50%目安
- 自己株式取得 状況に応じて機動的に判断

2022年度 配当予想

- 1株当たり配当金 年間30円 (中間 15円 / 期末 15円)
- 配当性向 49.7%
- 配当金総額 87億円



※ 2021年11月25日開催の取締役会にて総額100億円(上限)の自己株式取得を決議
2021年度は自己株式を71億円取得しており、2022年度は28億円取得する見込み

21

最後に、株主還元についてご説明します。

「中期経営計画2024」の株主還元方針として、安定的かつ継続的な配当を重視し、配当性向50%を目安としています。

自社株買いについては、状況に応じて機動的に判断していきます。

2022年度の1株当たりの年間配当予想は、前年比12円増の年間30円としました。配当性向は49.7%となります。

また、2021年11月に決議した、総額100億円の自己株式取得については、年度末までに71億円を実施しており、引き続き、残額分の取得が進められています。

以上で、私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

The logo for CITIZEN is centered on a white background. The background is framed by a decorative border consisting of a grid of lines that curve inward from the corners, creating a tunnel-like effect. The lines on the left side are colored in a gradient from purple to yellow, while the lines on the right side are colored in a gradient from blue to green. The word "CITIZEN" is written in a bold, black, sans-serif font.

CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
なお、億円未満は切り捨てになっています。

2021年度通期セグメント別業績推移(2019年度比)

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2019年度 通期実績	2021年度 通期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	1,416	1,310	▲ 105	▲ 7.4%
■ 工作機械事業	585	810	+ 224	+ 38.4%
■ デバイス事業	559	500	▲ 59	▲ 10.5%
■ 電子機器他事業	224	192	▲ 31	▲ 14.0%
合 計	2,785	2,814	+ 28	+ 1.0%
営業利益				
■ 時計事業	39 (2.8%)	103 (7.9%)	+ 63	+ 161.7%
■ 工作機械事業	72 (12.4%)	125 (15.5%)	+ 53	+ 73.4%
■ デバイス事業	9 (1.7%)	28 (5.7%)	+ 19	+ 209.1%
■ 電子機器他事業	▲ 2 (▲ 1.0%)	11 (6.1%)	+ 13	-
消去又は全社	▲ 57	▲ 46	+ 11	-
合 計	61 (2.2%)	222 (7.9%)	+ 161	+ 263.0%

貸借対照表

(単位：億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	前年度 末比 増減額	(単位：億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	前年度 末比 増減額
流動資産	2,444	2,701	+256	負債	1,529	1,562	+33
現金及び 預金	1,018	1,109	+90	有利子 負債	748	661	▲ 87
棚卸資産	902	970	+67				
固定資産	1,213	1,248	+34	純資産	2,128	2,386	+258
有形固定 資産	759	748	▲ 10	株主資本	1,937	2,040	+103
投資有価 証券	333	372	+39	為替換算 調整勘定	48	166	+117
資産合計	3,658	3,949	+291	負債・純資産 合計	3,658	3,949	+291

キャッシュフロー計算書

(単位：億円)	21上期	21下期	前年 同期比 増減額
営業活動によるCF	151	195	+44
投資活動によるCF	▲ 39	▲ 55	▲ 16
フリーキャッシュフロー	111	139	+28
財務活動によるCF	▲ 15	▲ 183	▲ 168
現金及び現金 同等物残高	1,103	1,112	+9

